

博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1953 号

学籍番号

氏 名 藪中 幸一

論文審査員

主 査 (職名) 真田 茂 (教授)

副 査 (職名) 高山 輝彦 (教授)

副 査 (職名) 鈴木 正行 (教授)



論文題名 Sonographic appearance of the normal appendix in adults

論文審査結果

超音波画像法においてコントラスト分解能の優れた tissue harmonic imaging (THI) を用い、正常虫垂の描出能について検討した。腹部超音波スクリーニング検査 (US) を施行した成人 788 名 (402 male and 386 female; mean age, 51.1 years; age range, 16-91 years) を対象とした。正常虫垂は、US で認めた虫垂が盲腸部から連続した管腔臓器でその先端が盲端となっていることによって確認した。正常虫垂は、その直径と Wakeley の区分を基に、A 領域：回腸前性と回腸後性で、虫垂の先端が回腸末端の内側上方へ向かってのびる、B 領域：骨盤性で、虫垂の先端が大腰筋をすべり下方へ進む、C 領域：盲腸後性で、虫垂の先端が盲腸の後方及び外側を頭側に向かって進む、D 領域：盲腸下性で、虫垂の先端が右を向き、盲腸下縁のすぐ下に位置する、の 4 種類に分類した。描出されなかった原因については、腹壁の厚さ (盲腸部直上の腹壁を計測)、Body Mass Index (BMI)、年齢、性別を描出例と比較検討した。

正常虫垂の描出例 388 例 (male:189, female:199)、非描出例 400 例 (male:213, female:187) と、描出感度は 49.2% であった。虫垂の平均直径は 4.3 ± 1.2 mm (1.0-11.1) で、陽性例 388 例中 291 例 (75%) に虫垂内ガスを認めた。描出例 388 例の内訳は、A 領域が 37 例 (9.5%)、B 領域が 291 例 (75%)、C 領域が 23 例 (6.0%)、D 領域が 37 例 (9.5%) となった。また、非描出例 400 例中 61 例は、盲腸部が骨盤内に在った。腹壁の厚さにおいては、描出例 (14.5 ± 5.2 mm)、非描出例 (21.0 ± 9.4 mm) となり有意差を認めた。BMI の比較では、描出例 (21.3 ± 3.0)、非描出例 (23.5 ± 4.2) となり有意差を認めた。年齢及び性別では、両者に有意差はなかった。

本研究は、いままで解明されていなかった US 画像における成人の正常虫垂に対する描出能とその描出に与える因子について明確した。腹部超音波検査スクリーニング検査時に無症状の虫垂炎を発見できる検査手技を確立する優れた研究であり、博士 (保健学) の学位を授与するに値すると評価する。